

## メキシコ共和国チャピngo自治大学第4回報告書

生産環境工学科 4年 上野 円

東京農業大学国際協力センター世界展開力強化事業の一環として、メキシコ共和国のチャピngo自治大学に留学しています東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科の上野円です。

4月に2ヶ月もの間続いた大学ストライキも終わりました。長かったストライキ期間できしたが、その間同室で生活していた東京農工大学の方のおかげである意味講義に出席するよりも充実した学習をすることができました。いわゆる農大が持つ教育理念“実学主義”に基づく活動です。

具体的に言えば、地元イチゴ農家でのインターンシップ。酪農団地への取材。そして、種苗会社への調査です。



(地元イチゴ農家)



(酪農団地)



(現地種苗会社)

特に力を入れて行ったことは、現地種苗会社への調査です。

この種苗会社は主に、Geranio 苗をアメリカに輸出し、Nochebuena やランを国内市場に卸しています。大規模な農業会社の特徴として、大規模に生産し市場に会社所有トラックもしくは委託トラックを使って輸送しているためメキシコ農家が抱えている集荷業者による利益の収奪が発生しないということがあります。この現地種苗会社も例にもれず、国内市場には自社所有トラックを用い、温度管理などが難しい輸出製品には温度調節機能がありさらに多量に製品を運べる委託トラックを用いて空港まで輸送していました。

輸出製品を扱っていることもあり、輸出用苗を管理するビニールハウスでは厳しい衛生管理がとられていました。入る際の手洗いはもちろんのこと、毎日洗濯され取り換えられる白衣と長靴を着用し、国内市場用の部門に立ち入った場合はその日のうちは輸出用のエリアには立ち入れないという徹底ぶりです。もちろん病害虫対策にも力を入れており、病気が発生した苗の隔離、焼却処分はもちろんのこと、発生に内容に各日単位で設定されている農薬や肥料の量、温度管理を含めしっかりと管理運営がされていました。また、輸出される際にも、保冷剤が入れやすいように設計された段ボールを用い、パッキングにも冷房がついた低温室が使われるなど最新の注意が払われていたことがわかりました。

また、国内市場向けについても目を見張るものがあります。

主力商品である Nochebuena はメキシコのクリスマスに欠かせない植物で、12月近くになると葉が花のように赤くなりどの家庭での大抵置かれている植物です。Nochebuena の苗を国内の生産者向けに出荷していますが、クリスマス時期に近づくと大きいサイズのものをそのままホームセンターに卸すなど一年中製品を供給することのできる体制を整えています。また、肥料土なども自社で開発し使っており経費削減にも取り組んでいます。

そして、そのほかの商品開発についても力を入れていました。この会社の保有する圃場は2つあり、新しく土地を購入した圃場では最新の技術を持つ大可賀のビニールハウスが作られ栽培方法が難しい蘭などの花きが生産されていました。これにより、主力商品に頼らないよう様々に植物の栽培を積極的に行っていきこれからも生産事業を拡大していくつもりだと言っておられました。



(出荷前の Nochebuena)



(生育途中の蘭)

この調査で何よりも良かった点が、インターネットや書籍で得た情報と実際に行き得られて情報のすり合わせが行えたという、点です。この時期になってようやくですが、スペイン語で最低限の会話ができるようになりました。そのかいもあり、従業員の方や役員の方々に話を伺うことができました。メキシコ農業の実情からその地での生活についてなど様々なことを聞くことができました。どの情報についても実感をもって知ることができ、とても参考になることばかりでした。

例えば、事業を大規模化することによって生じた将来あたることになる問題についてです。国内市場向けの生育した大型の苗について、今のところ問題にはなっていないが卸先の75%を大手ホームセンターに依存してしまっていることに危機感を覚えていると、おっしゃっていました。今取引がストップしてしまうと、大損害を受ける可能性があり、その他の大手スーパーマーケットなどの卸先を模索し、対策案を練っているとのことでした。これらのように実際に企業が取り組んでいること、これからしようとしていることを知ることができました。

調査や見学に大きく時間を割くことができたのは、ストライキがあったからです。もちろん講義が大幅につぶれたのは痛手ですが、そのおかげで貴重な経験を多く積むことができました。これらの調査を参考資料として、帰国後の卒業論文の制作の足掛かりとしていければと考えております。